

地域と一緒に自然体験活動がしやすいビオトープ環境づくり

取組概要

ビオトープ環境づくりは、赤堀東小学校の特色ある教育活動「ビオトープを利用した自然体験活動」を通して、ビオトープの環境を維持・管理する活動です。生き物とのふれあいや体験等、赤堀東小児童・PTAはもちろん、地域の方も一緒に活動します。

取り組みの詳細

【赤堀東小ビオトープ 輝】

赤堀東小開校当初に児童・PTA・地域の方が協力して池や水路を造成し、木や植物を植えて、学校で管理をしているビオトープです。定期的に人の手を入れる必要がありますが、子どもたちの生き物ふれあい体験の傍ら、PTAや地域のボランティアの方々がそれを見守りつつ整備を行っています。

年間3回計画

第一回「トボさんいらっしゃい！ビオトープをキレイにしよう！」

～水辺の生き物さがしと、池そうじ～

第二回「枯れ木を整理！生き物あつまれ！」

～ノギリで木を切ってみよう！木を積んで虫げんき～

第三回「ビオトープで春を迎える準備をしよう！」

～ビオトープ整備と冬の生き物さがし～



成果

- 自然に親しんだり、生き物とふれあう活動をしたりすることで、優しい心が醸成され、命を大切にしたり、他者と協力したりする心が育っている。
- 児童、PTAを始め、地域のボランティアの方々にも協力していただいたことで、世代間交流や協働作業ができた。

課題や今後の取り組み

- 草木の生長が著しい時期が手を入れたい時期なので、どうしても酷暑中の作業になりがちである。作業時刻、作業時間の設定や水分等の確保など、健康安全面には細心の注意が必要である。楽しみながら実施できる形態を考えていきたい。

その他の取り組み紹介

- 赤堀まつりパトロール、赤堀文化祭の運営参加など、地域行事への協力
- 赤堀東小学校運動会の運営協力

主な活動実績

PTA活動の一環として、地域の団体と協力してビオトープの維持管理を行うことで、子どもたちの豊かな学びと成長を地域全体で支える取組を実践している。

基礎情報

団体名

伊勢崎市立
赤堀東小学校PTA

全校児童・生徒数

318名

学校の特徴

本校は伊勢崎市の北東部にあり、国道50号線を中心に工場や住宅も増えてきていますが、早川沿いの自然公園、田畑や水田など、赤城山の裾野に広がる豊かな自然が残っている地域です。平成12年に創立され、校舎のスタンドグラス、屋上の鐘カリヨン、木の風合いを活かした体育館がシンボルとなっています。校地にはケヤキやサクラを始め、クヌギ、クスノキ、イチヨウ、マツなど緑が豊かな学校です。

組織構成

赤堀東小学校PTAの組織



PTAによる大型紙芝居上演

取組概要

PTAによる大型紙芝居の読み聞かせを体育館にて行う。

取り組みの詳細



名和小学校の歴代PTAが作成してきた大型紙芝居から、作品を選び、体育館で全校児童に読み聞かせを行っています。



読み上げはPTAの役員とボランティアが行います。職員も参加します。



上演後は児童から感想を聞いたり、紙芝居の絵を間近で見たりしています。

児童の感想

- おばけの子どもがかわかった。
- 後ろでたくさんの人が紙を動かしてすごいと思った。
- 効果音を言葉で言っていたのが面白かった。

成果

- 低学年から高学年まで幅広く理解できる話を披露することによって、児童の情操を育むことができた。

課題や今後の取り組み

- ボランティアによる協力体制の継続
- 紙芝居の新作作成や既存作品の保存

その他の取り組み紹介

- ボランティアによる朝活動での読み聞かせ
- 年間2回の広報誌「名和小PTA新聞」の発行

主な活動実績

PTAが主体となり、子どもたちの情操を育む「大型紙芝居の読み聞かせ」を実施した。

二中地区学府連携協議会と連携し、近隣のPTAと年4回の挨拶運動を実施している。

基礎情報

団体名

伊勢崎市立
名和小学校PTA

全校児童・生徒数

419名

学校の特徴

学校教育目標である「心ゆたかにたくましく 未来をひらく 児童の育成」の実現に向けて、学校・保護者・地域が連携・協働した双方向の取り組みや、外部人材を活用した体験学習や授業の充実を図っている。

組織構成



PTAイベント「あきま万博」の開催～通信アプリ「LINEオープンチャット」を活用して～

取組概要

通信アプリ（LINEオープンチャット）を活用し、保護者への連絡や各種アンケート、活動写真の配信を行い、「あきま万博2025」の開催等、PTA主体の運営を効率的に行った。

取り組みの詳細

○通信アプリを活用したPTA運営

LINEオープンチャットを活用し、PTA役員から、直接保護者への連絡やFormsアンケートを行っている。なお、オープンチャットへの保護者の登録は任意である。

◇PTAイベントの開催 （ひまわり委員会）

「あきま万博2025」

PTA主催の「あきま万博2025」では、イベントの案内や呼びかけ、参加アンケート、ボランティアスタッフの募集、実施後のアンケート等、すべてLINEオープンチャットを活用して実施した。イベントも盛況であった。

参加：児童66名 保護者55名
ボランティア24名（卒業生等）



◇行事写真の配信 （コスモス委員会）

昨年度からPTA広報の紙ベースでの作成、配布をやめて、学校行事等の写真をLINEオープンチャットで配信している。

オープンチャットは、学年、運営委員会、専門委員会ごとのグループを作成し、必要なグループへの配信を行っている。

成果

・PTA役員から直接、連絡・配信ができ、PTA主体の運営を効率的に行うことができた。

・行事の写真を配信することで、保護者に児童の様子が伝わり、学校への理解が深まった。

課題や今後の取り組み

・LINEオープンチャットの登録は任意のため、必要に応じ、学校の通信アプリで全保護者へ連絡しなければならない。

・継続した取組にするため、次年度の役員へ運営方法の引き継ぎが必要となる。

その他の取り組み紹介

・PTAの会議を参集とオンラインのハイブリッドで開催。

・登下校パトロールによる児童の安全見守りを実施。

主な活動実績

通信アプリを活用してPTA役員から直接全保護者へ連絡したり、専門委員会がPTA活動や学校行事の様子を配信したりするなど、効率的な運営の工夫をしている。

基礎情報

団体名

安中市立
秋間小学校PTA

全校児童・生徒数

85名

学校の特徴

新幹線「安中榛名駅」の下に広がる新しい町並みと、昔ながらののどかな田園風景の広がる地域。地域の教育に関する意識は高く、「AKIMAスマイルサポーターズ」として、読み聞かせや総合的な学習の時間、学校行事、登下校のパトロールなどに多数参加。

組織構成

運営委員会

【本部役員】

・会長 ・副会長
・書記 ・会計

【運営委員】

専門委員会

【ひまわり委員会】 広報
【コスモス委員会】 セミナー

私がやるよ！一緒にやろう！～PTA会員・地域団体の当事者意識をもった活動～

取組概要

PTA会員と地域団体が、当事者意識をもって学校行事や地域行事に関わり合い、互いの役割のもと連携した教育活動を行っている。

取り組みの詳細

主体的な安全の確保

校区の地区別に、登校時の街頭指導や冬期間の除雪を実施している。学校からは街頭指導の場所や時間を提示し、PTA地区委員が保護者の連絡や当番決め、資料作成や配布を自主的に行っている。学校から提示された場所以外にも、保護者が危険とを感じる場所で街頭指導や除雪などの安全活動をしなが、PTA会員が主体的に子どもや地域のために安全活動を行っている。



協力し合える体制

年々児童数が減少する中で、PTA会員数も減少している。そこで、PTA役員の負担軽減のため、校内マラソン大会では、後走者をPTA役員だけでなく、全会員から希望者を募ることで会員の得意・不得意を補い合っている。会員の保護者が主体的に後走として参加することで、PTA役員が運営に専念することができている。



地域と共に育てる

読み聞かせ団体「かやの会」や一般社団法人「つなぐカンパニー」、浅間山ジオパーク推進協議会「浅間山北麓ジオパーク」などの多くの地域団体と連携し、地域の方が授業や行事で活動をしている。
また、地域の祭りや行事の日程を、学校の年間計画に記し、子どもが地区の行事に参加できるようにしている。さらに、保護者や地域住民をPTAセミナーや親子行事等の講師に活用し、PTA会員と地域住民で連携しながら、子どもたちを育てている。



成果

- ・行事等の準備や当番・係決めをPTA会員が主体的に取りまとめたり、活動したりすることで、会員の当事者意識が高まり学校と保護者が協力して子どもたちを育てようとする意識が醸成されている。
- ・学校教育の中にPTA会員や地域団体の教育力を取り入れることで、学校職員が変わってもPTA会員や地域で連携した教育活動を継続することができる。

課題や今後の取り組み

- ・PTAセミナーや家庭教育学級など、会員相互の学習機会の開催日程や内容を工夫し、研修を充実させていく。
- ・年々減少していくPTA会員数に応じた役員と活動のあり方を今後検討していく。

その他の取り組み紹介

- ・PTA会報「つばい」を年間2回発行している。1年生と6年生の全保護者が寄稿し、会報を通じて子どもの在学中に全ての保護者と子どもの紹介をしている。
- ・年6回開催している運営委員会のうち、1回を紙面開催としている。行事や会議に参加するPTA役員の負担を軽減し、効率を図っている。

主な活動実績

通学時街頭指導や除雪活動をPTA会員が当事者意識をもって実施している。

さらに、PTA役員と保護者ボランティアが校内マラソン大会の運営を行っている。

基礎情報

団体名

長野原町立
中央小学校PTA

全校児童・生徒数

78名

学校の特徴

令和3年に第一小学校と中央小学校が統合して開校4年目に当たります。統合以前から地域の教育力を活かした取り組みを続けています。家庭や地域、各種団体と連携した教育活動の中で、子どもは生き生きと活動しています。

組織構成

【本部役員】

- 会長：1名（前年度【書記兼任】の副会長）
- 副会長：3名
 - （1名【家庭教育委員長兼任】保護者）
 - （1名【書記兼任】5年生の保護者
次年度の会長）
 - （1名【会計兼任】6年の保護者）
- 書記：1名（教頭）
- 会計：1名（事務職員）
- 総監査：2名（6年保護者・前年度会長）
- 顧問：2名（校長・前年度会長）

【専門委員会】

保体教養委員会・広報委員会・学年委員会
地区委員会・地区副委員会

役割の組織から、つながりのコミュニティへと再構築 ～安心の仕組みづくり～



取組 概要

子どもたちの未来を支える、大人たちのつながりを考え、持続可能で自ら選択できるPTAを目指して、新しい文化の創造。

取り組みの詳細

PTAハンドブック作成

活動の目的・内容・未来像を可視化し理解・納得・安心を生み出す基盤を整備



活動エントリー制導入

大人たちも「自分で考え、自分で判断して、行動する」といった参加への自己決定が尊重される仕組みへ

すべて“任意参加”へ

「やらなければならない活動から主体的につくる活動へ」
集まった人数で、できる範囲の活動を行い、関わり方の多様化を生み出し、持続可能性を高める



体育着リサイクル販売



親子防災教室

主体的に関わり、仕組みで支え、すべての子どもたちのために

成果

- ・PTAの運営が適正化され、持続可能性が確立。
- ・会員の心理的ハードルが下がり、参画が前向きに。
- ・「ありがとう」の循環。

課題や今後の取り組み

- ・取り組みを「伝える」から「伝わる」ための発信力強化。
- ・PTAという構図に限定せず、学校・保護者・地域が一体となり、誰もが関われる綿打SACの推進。

その他の取り組み紹介

- ・試験的運用を取り入れ組織をブラッシュアップ中
- ・共同会長制を導入し負担分散
- ・体育着リサイクル販売開催
- ・防災教室、人権講演会の開催
- ・地域ボランティアとの協働

主な活動実績

PTAハンドブックを作成し、PTAの目的の共有と活動の見える化を行った。

PTA活動では、活動エントリー制を導入し、会員も教員もすべて任意参加としている。

基礎情報

団体名

太田市立
綿打小学校PTA

全校児童・生徒数

382名

学校の特徴

本校は、明治6年創立、「廣業館」として始まり創立152年を迎えました。地域と連携しながら、『やさしく』『かしこく』『元気な子』『綿っ子』を育てる教育目標を掲げ、豊かな自然環境の中で、郷土愛をもとにチャレンジ精神を培っています。

組織構成

<本部役員>

共同会長 2名（試験的運用）
副会長 3名（教員1名）
書記 3名（教員1名）
会計 3名（教員1名）
担当員 2名
顧問 2名（校長1名）
会計監査 2名

※令和5年度よりPTA組織運営の試験的運用を開始し、従来の組織運営の見直しと適正化に向けて運用中。専門部や委員会は休止とし、活動エントリー制を導入。